

天白区

史跡散策路

&

楽楽ウォーキングマップ

マップづくり隊  
おすすめ



ちょっと歩いてみませんか？



天白区 史跡散策路

& 楽楽ウォーキングマップ



史 跡 散 策 路

 <sup>らくらく</sup> 楽楽ウォーキング



お願い

◎史跡等を見学するときは、管理者の許可を受け、指示に従って下さい。

◎史跡・文化財はみんなの財産です。傷つけたり汚したりしないよう注意しましょう。

◎自然を大切に、草木をいたわりましょう。

◎交通ルールを守り、事故にあわないよう十分注意しましょう。

◎一般の方の通行を妨げて迷惑をかけることのないようにしましょう。

◎ごみ、タバコの吸い殻、空き缶は投げ捨てないで持ち帰り、町の美化に努めましょう。

姫街道と  
ハイキングコース …P.21～  
(約5km)

荒池周遊  
自然コース…P.21～  
(約4km)



# 史跡散策路 コースガイド

## ●天道・塩釜と坂道コース(約6.5km)

八事の交差点から閑静な「旧道」を行くと、飯田街道に出合う。左手に折れてしばらく行くと千手観音を残す「浄久寺」。道の左右の石材店を見ながら八事へ。「五社宮」、「高照寺」への参道は、かつて、祭りの日には大賑わいであったという。「佛地院」から、桜や藤の花が咲く頃は特に美しい、安産と子どもの守護神として知られる「塩竈神社」・「御幸山公園」まで、八事の丘陵を一回りするコースです。



## ●清流と神社・寺院コース(約4.5km)

地下鉄植田駅北側に集まり建つ3寺院を巡り、「植田八幡宮」を経て植田川沿いを下ると、天白川との合流点につくられた天白川護床工(平成4年度都市景観大賞)が見えてくる。人道橋「寄鷺橋」を渡り新島田橋から提灯まつりで知られる「地藏寺」へ、「島田神社」から桜並木が続く植田緑道を散歩して地下鉄植田駅までのコースです。



## ●相生山緑地と自然観察コース(約5km)

島田バス停から「島田城址」、旧村社の「菅田神社」を拝観したあとは、区内で最も水質が良いといわれる「双子池」を横に見て、相生山緑地の麓にそって進む。緑地に入って「葉書塔」、「徳林寺」を経て、しばらくは、自然観察しながらの散策が楽しい。緑地を抜け、「千秋家の墓」、「野並八剣社」までのコースです。



## ●姫街道とハイキングコース(約5km)

商店やマンションが建ち並ぶ地下鉄平針駅と原駅を起・終点とするコース。史跡は少ないが、毎年10月に「区民ハイキング」のコースをとり込んだ比較的平坦な散策路。火渡り神事で知られる「秋葉山慈眼寺」、「針名神社」を経て、「農業センター」へ立ち寄り休憩するのも良いだろう。「秀伝寺」から西へ、やや狭い脇道へ入る。これが、いわゆる「平針街道」(姫街道)である。

# 「楽楽ウォーキング」 コースガイド



天白区は中央に天白川・植田川が流れ、公園緑地も豊かで、桜や梅などの花にめぐまれたところです。こうした自然を皆さんの身近に感じていただき、天白の魅力を再発見してもらおうと「ウォーキングマップづくり隊」を公募しました。

応募された皆さんが「お勧めのポイント」を出し合い、実際に歩いて検証を重ねて、このウォーキングコースが誕生しました。

また、生き物たちのページは、自然観察会などの皆さんのご協力によりできました。どうか皆さま、季節を変えて何度も訪れていただき、ウォーキングを楽しんでください。

## ●天白川あんしん散歩道コース(約8km)

天白川に沿って天白区を縦断するコースです。天白川と植田川の合流点より上流部分は、水鳥や植物などの自然を見ながら楽しめ、散策に最適です。

一方、合流点より下流は、河川敷が広く「天白川緑地」として整備されているので、サイクリングや、小さい子ども連れでものんびり楽しむことができます。

全長は8kmと比較的長いので、楽しみ方に合わせて区間を分けて歩くこともお奨めです。

## ●相生山自然どつぱりコース(約6km+)

### オアシスの森はお好きな道を

相生山北部の雑木林を市民や地主の方のご協力により手入れした「相生山緑地オアシスの森」と、あまり知られていない南部を訪ね歩く自然いっぱいのコースです。

都会の中にいることを忘れてしまうほどの豊かな自然と、のどかな風景を満喫できます。

## ●荒池周遊自然コース(約4km)

天白区東部に残された歴史と自然に恵まれたスポットをたずね歩くコースです。この周辺は「野鳥保護区」に指定されており、たくさんの鳥たちに出会うことができます。

また、荒池や大堤池の水辺の風景、農業センターのしだれ梅や動物たち、針名神社や秋葉山慈眼寺などの歴史文化など、比較的短いコースの中にも変化に富んだ風景をお楽しみください。

### 【ウォーキングマップづくり隊のみなさん】(敬称略)

井田和徳・トシ子・友香梨・翔子、伊藤喜久子、太田はまえ、加藤英輔、神澤和子、神谷活代、川原俊夫、黒川光雄、酒井真由美、真田桂子、土屋美智子、富岡和子、西尾八重、則武桂子、長谷川佳代子、古米武治、星野素一、町田美代子、山本勇、行政和代

### 【植物・鳥・昆虫の写真や解説の協力】(敬称略)

平針探鳥会:古澤頤一  
相生山緑地自然観察会:近藤記巳子  
天白・川辺の楽校:篠田陽作



# 史跡散策路「天道・塩釜と坂道コース」(約6.5km)

地下鉄八事  
2番出入口

①八事旧道  
ゆるやかな下り

②浄久寺  
800m

③五社宮  
100m

④高照寺  
1600m

ゆるやかな上り・下り

⑤佛地院  
900m

⑥大学院  
1000m

⑦八事神社  
200m

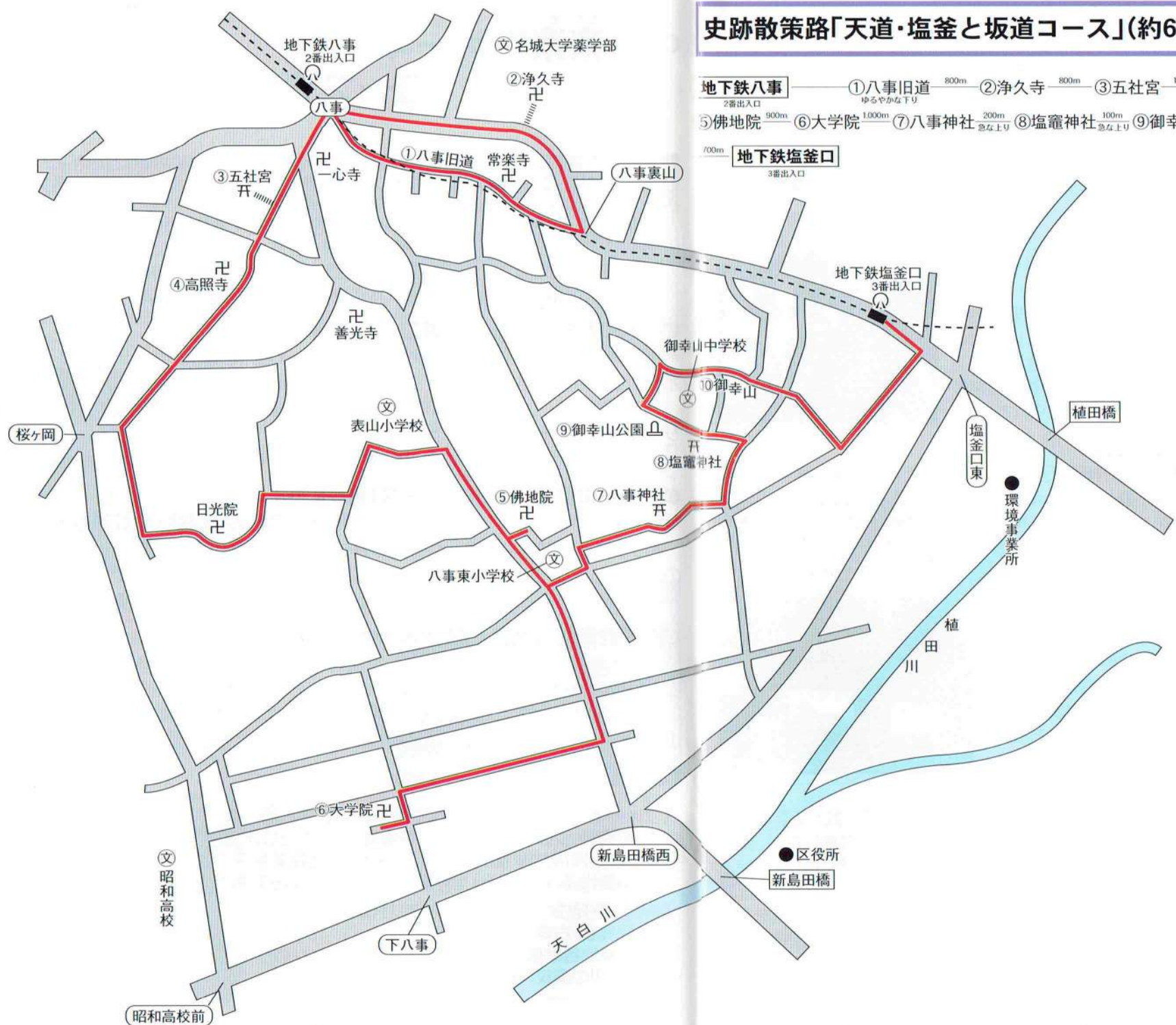
⑧塩竈神社  
100m

⑨御幸山公園  
300m

⑩御幸山(桜並木)

ゆるやかな下り

地下鉄塩釜口  
3番出入口





## 史跡散策路

### 天道・塩釜と坂道コース

#### ①八事旧道

八事交差点から東へ向かう国道153号線の本南の道路が、いわゆる八事旧道といわれ、起伏のある街道の両側は桜が多く、かつては、人通りの途絶えることがない程の賑わいであったという。

#### ②浄久寺

曹洞宗。宗源山と号し、永禄11年(1568)の創建。はじめ清洲城下、外町にあったが、清洲越しで慶長15年(1610)、名古屋の南寺町(門前町)に建立した。その後、大正12年現在地に移るが、昭和20年5月17日未明の大空襲によって、山門などごく一部を除き本堂や庫裏などが焼失した。安置されている千手観世音菩薩は恵心僧都(源信)の作といわれ、腹部に平家の悪七兵衛景清が矢尻で彫ったという胎藏仏が納められている。



#### ③五社宮

日・月・星・神明・天王の五社を祀るため五社宮と称する。創建不詳。寛保元年(1741)丹羽郡稲木荘寄木村の天道宮を八事山に遷座。神仏混淆して寺院となった天道宮を八事山へ遷座に際して旧来の神祇として祀った社が五社宮である。明治維新の神仏分離令により高照寺と分離した。



#### ④高照寺

臨済宗。元は、延喜式神名帳に記載のある丹羽郡稲木荘寄木村の稲木神社(稲置天神)で、享保9年(1724)天道山高照寺と改め、寛保元年(1741)愛智郡八事邑の現在地に遷座。本堂は天道宮ともいわれ、御本尊は天道大日如来も祀っている。往時の寺域は広大で、五社宮はもちろん、八事の八勝館あたりまで境内であったといわれている。



#### ⑤佛地院

前身は明徳4年(1393)に開創された末寺十数ヶ寺をもつ真言宗の一本山であった。数度の火災のため荒廃したが、寛永元年(1624)二世物道和尚が復興改宗され、陶金山佛地院と命名。十一世鶴峰和尚の代の天正7年現在地に移転し、音聞山佛地院と称するようになった。ご本尊は釈迦牟尼仏を祀っている。大正10年発行の「東山名勝案内」によれば、「音聞山(現在の御幸山)の西南麓にあり、三方に碧地を控え、最も景勝を占める。」とある。



#### ⑥大学院

真言宗。創建不詳。前身は鎌倉期に開創された真言密教の古刹。大学院は文字どおり徹頭徹尾学問修行の寺であり、祈願の寺である。京都の醍醐寺末で、中世の頃八事に塔頭末寺数々寺をもつ大聖寺という古刹があり、現在の元八事の地に修行僧の教育にあたる寺子屋があったが、これが草創期の大学院の姿である。寛永18年(1641)備中出身の僧善能法印がこの地に草堂を結び、本尊青面金剛(庚申さま)を奉安し、真言密教を広めた。「尾張徇行記」に、「庚申堂一字あり、山伏これを監理するとあるのは大学院のことである」と記載されている。

#### ⑦八事神社

祭神は応神天皇を始め四柱を祀る。明治43年に八幡社(現境内地)、下八事の一之御前社、八幡山の高峯神社を合祀し、名称を八事神社と改めた。



#### ⑧塩竈神社

祭神は塩土老翁命。弘化年間(1844~1847)の頃、天白村の豪農山田善兵衛が陸奥国国幣中社塩竈神社から分霊を賜り、奉祀したことにはじまる。神社には、市の保存樹で樹齢百数十年という藤の老木があり、見事な薄紫の花を咲かせる。安産と子どもの守護神として参拝者が多く、桜の頃の護児祭は特に賑わう。



#### ⑨御統監碑・御野立所碑(御幸山公園)

公園内に二つの石碑がある。明治23年4月2日陸軍大演習が行われたとき、明治天皇がここで諸軍を統監、さらに大正2年11月13日陸軍特別大演習のとき、大正天皇がこの地を御野立所として再び統監された。これを記念して、大正4年村民によって建てられたのがこの碑である。



#### ⑩御幸山

地下鉄塩釜口駅の南西、塩竈神社を抱き込むような形で御幸山がある。春の桜、秋の紅葉の美しさが人々の心をとらえる。山からの夜景は、宝石をちりばめたように美しい。



 天白川あんしん散歩道コース(約8km) 

鳥と自然エリア＝平針駅～区役所(植田川との合流点約4km)  
のびのびエリア＝区役所(植田川との合流点)～野並駅4km  
(広場とサイクリングに最適)

## 清流と神社寺院コース

地下鉄植田 —700m— ①栄久寺 —100m— ②泉称寺 —100m— ③全久寺 —200m—

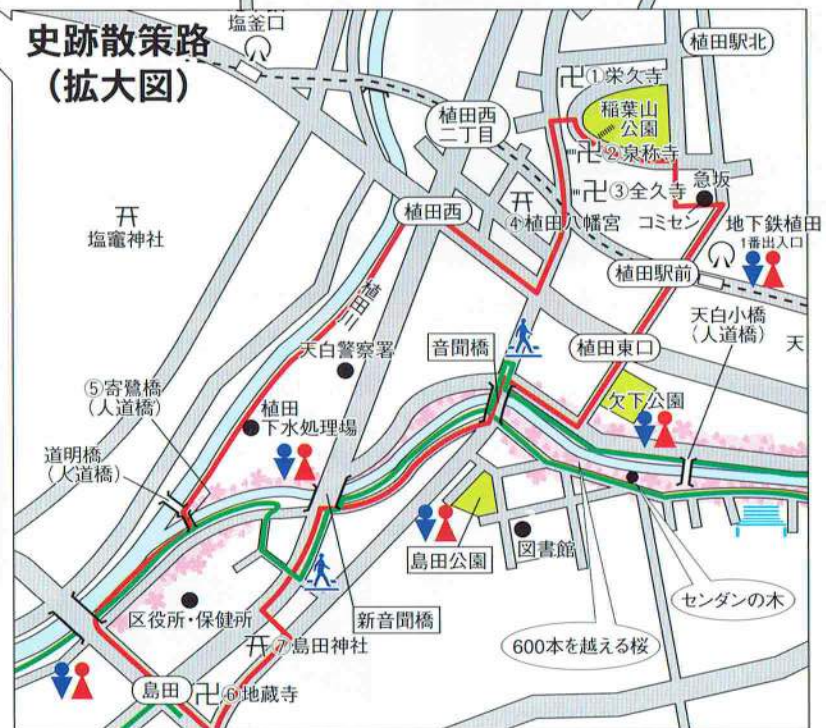
④植田八幡宮・大正天皇御乗馬跡——(植田下水処理場上部広場)

1.200m ⑤寄鷺橋——(島田緑道)——600m ⑥地藏寺——100m ⑦島田神社——

(植田緑道)  $\xrightarrow{1500m}$  **地下鉄植田**  
3番出入口



## 史跡散策路 (拡大図)



※天白川では河川の改修工事が行われていますので時期や区間によっては、工事中で通行できない場合がありますのでご了承ください。



# 史跡散策路 清流と神社寺院コース

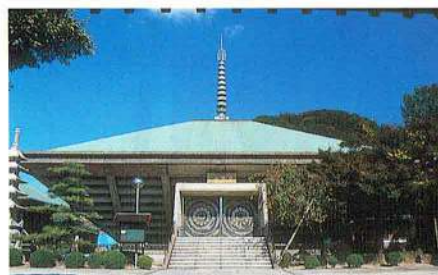


## ①栄久寺

浄土真宗。創建不詳。松雲山と号し、文明12年(1480)永照法師室賀多門が伽藍を建てる。当初は、飯田街道の南に建っていたが、天白川がたびたび氾濫するので水難を避けるため、文化3年(1806)現在の地に移された。

## ②泉称寺

浄土真宗。創建不詳。常喜山と号し、天台宗であったと伝えられるが、大永3年(1523)浄土真宗第9代実如上人に帰依し、改宗。当初は、植田八幡宮の南側の飯田街道沿いに建っていたが、天白川の洪水の被害から逃れるため、享保19年(1734)3月現在の地に移された。



## ③全久寺

曹洞宗。福田山と号し、文明3年(1471)將軍足利義政の命により、遠州横地城から植田城主となった横地秀綱が建立。当初は、飯田街道南側に建っていたが、天白川の洪水の被害から逃れるため、寛政4年(1792)頃現在の地に移された。昭和48年RC造りに改築。



## ④植田八幡宮・大正天皇御乗馬跡

祭神は応神天皇。創建不詳。天正8年(1580)植田城主横地権蔵秀住の家臣室賀久太夫によって修造された。境内には、大正天皇が皇太子のとき明治41年に陸軍大演習を覬覧された折、愛馬「藤園」に御乗馬になった跡の記念碑が建っている。なお、神社境内にあった古墳は、約1500年前の古墳時代中期のものである。その古墳は、昭和49年に八幡宮が大改修された際、後円の一部のみ残し大部分が削りとられて原形をとどめていないが、その大きさは、前方部の長さ40m、後円部の高さ6m、全長80mもある大きな前方後円墳であったといわれている。



## ⑤天白川・寄鷺橋

区のほぼ中央で天白川と植田川が合流し、天白川となり南区を抜け海へ注いでいる。合流点付近に東海地方では珍しいニールセンローゼ型の人道橋「寄鷺橋」がある。また、「天白川天白護床工」は、植田川との合流点につくられた河川管理施設で、馬蹄形で段状という特異な形により見事に自然と調和をさせ、快いせせらぎの音を創出したところが高い評価を受け「名古屋都市景観大賞」を受賞した。河川敷には公園、サイクリングコースがある。川に沿って上流から「平針原緑道」～「菅田緑道」があり、清流を泳ぐ魚や水鳥などを眺めながらジョギングなどが楽しめる。



## ⑥地藏寺

曹洞宗。嘉吉2年(1442)樵山和尚が島田山広徳院として創建。延徳3年(1491)大洪水があり寺殿を破壊されたが、鳴海の瑞泉寺の秀建和尚が、明応9年(1500)本殿を再建、島田山地蔵寺と改称。永禄3年(1560)桶狭間の合戦の折、焼失。その後、牧義次の男右近義汎が再建し、古厩山地蔵寺と改名。なお、別棟に祀られている地藏尊は熊坂長範の盗馬変毛の伝説がある。また、雨降地藏ともいわれる。



## ⑦島田神社

祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命を始め九柱を祀る。創建不詳。この神社には、島田城主であった斯波高経(牧氏の祖)が貞治年間(1362～1367)島田城を築くにあたり、城の鬼門除けの守護神として熊野権現を祀っていた。明治42年池場の神明社、八幡社、天神社を合祀の上、さらに黒石の山神社、天神社を合祀し黒石に移る。大正12年現在地に鎮座し、同15年天神社、秋葉社を境内に祀り、名称も島田神社と改めた。





# 天白川の鳥たち



ユリカモメ:冬鳥として飛来、クチバシと足が赤い、夏羽は頭が黒くなる



マガモ:オスの特徴は緑の頭と白い首輪、クチバシは黄色。メスは茶色で地味。



ヒドリガモ:額から東央部が黄色(ゴールド!)ビューと鳴く。



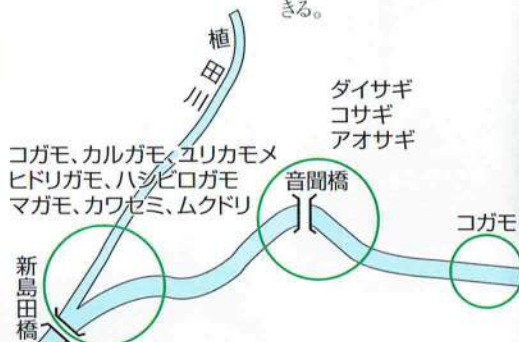
ムラサキツメクサ:シロツメクサに似るが花が紫色～淡紅紫色であるためこの名がある



コサギ:  
クチバシは黒く足指は黄色い、夏羽は頭に飾り羽が出る。



アオサギ:  
日本で最大のサギで青灰色、夏羽では頭に黒い冠羽ができる。



ナワシロイチゴ:ルビーのような赤い実



ヒルガオ:炎天下にやさしい色で咲く



ダイサギ:首が長い大型のサギでクチバシは黄色、夏期には黒く目先が青色になる。



ジョウビタキ:冬鳥、頭上部が灰白色、顔は黒く腹部はオレンジ、翼に白紋がある。



モズ:肉食で単独生活、鋭い鉤型の鉤クチバシ、長めの尾をゆっくりふりまわす。



## 天白川の植物たち



ユウスゲ:  
夕方より少しずつ花を開き、翌日の午前にはしおれる。レモンイエローの花は、ほのかな香りがある



キクイモ:  
花がキクのように根に芋がでるので、この名がある



セグロセキレイ:顔・頭は黒く白い眉が目立つ、腹部は白色、尾を上下に振り歩く。



ツリガネニンジン:小さな釣鐘型のかわいい花





## 相生山緑地オアシスの森



展望台からは  
市が見え、冬には  
御岳が見えます



コナラの大木

## 史跡散策路「相生山緑地と自然観察コース」(約5km)

## オアシスの森散策と相生山自然どっぷりコース (約6km+オアシスの森)



相生山神社



サクラ並木

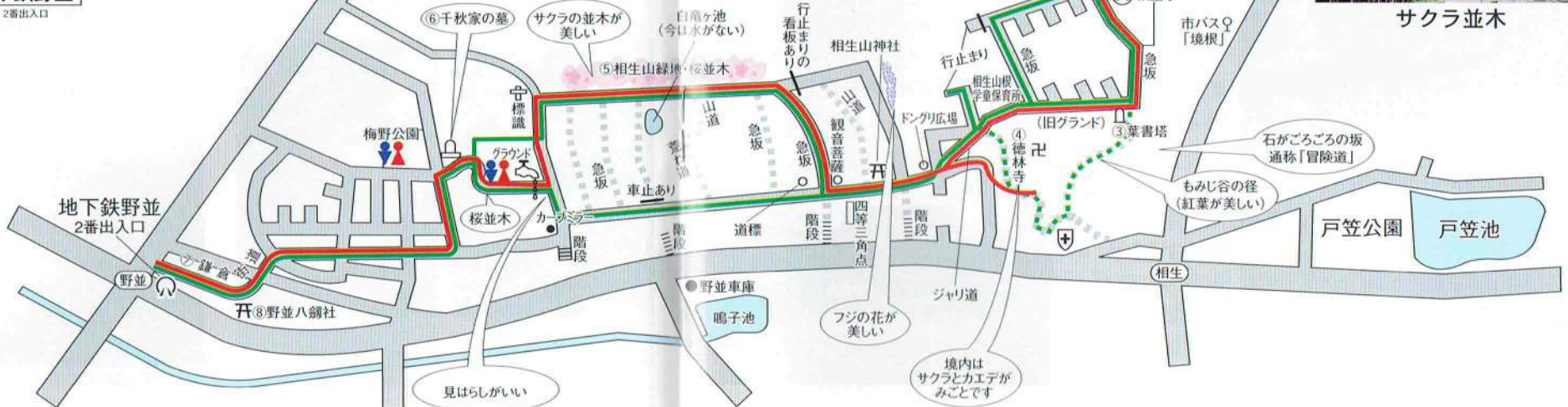
## 相生山緑地と自然観察コース (オアシスの森)

市バス停島田 200m ①島田城址 800m ②菅田神社 400m (双子池) 1200m ゆるやかな上り

③葉書塔 300m ④徳林寺 900m ⑤相生山緑地・桜並木 500m

⑥千秋家の墓 200m ⑦鎌倉街道 500m

⑧野並八幡社 100m 地下鉄野並 2番出入口





## 史跡散策路

### 相生山緑地と自然観察コース



#### ①島田城址

島田五丁目に昔の城跡の一部を残した小高い丘がある。室町幕府成立のころ、尾張、遠江、越前の三国の守護であり、また管領家であった斯波高経が、鎌倉街道の要所としてこの地に築城したことに始まる。東西70m南北180mの規模があったが、今は、本丸の部分に神社がある。代々の城主は斯波氏の一族で、牧氏を名のっていた。

#### ②菅田神社

祭神は仁徳天皇を主とし、ほかに天照大神、応神天皇など9祭神を祀る。創建不詳。明治5年7月28日村社となった。古来若宮八幡社と称していたが、明治42年3月16日島田の熊野社と合祀し、島田神社と改称。そして大正12年11月15日現在の菅田神社に改称された。



#### ③葉書塔

徳林寺の北東、林の中にひっそりと建っている。この塔には昭和2年新愛知新聞社（後、名古屋新聞社と合併して中日新聞社となる）が愛知県の新十名所を募集したときに集まった850万余枚の投票葉書が収められている。塔のそばに、この地が三百余か所の候補地の中から新十名所に選ばれたいわれを記した石碑がある。

#### ④徳林寺

曹洞宗。大正12年高岡徹宗が相生山を開発するにあたって、千葉県から徳林寺を移したときにはじまる。本堂には釈迦如来が安置されている。平成3年、ネパール人が日本で亡くした子息の菩提を祈願して小仏塔を建立した。



#### ⑤相生山緑地・桜並木

野並、相生、山根の3学区にまたがり、123ヘクタールという市内有数の広大な面積をもち、良好な自然を残している。緑地内に東西300～400mにわたって桜並木があることはあまり知られていない。野つつじが咲き、野うさぎの姿を見かけることがある。昆虫も多いが、特に鳥類は70余種が観察され、秋になると市内では珍しいコノハズク、ヤマシギの鳥に出くわすことがある。ひととき喧噪から離れ、野鳥の声を聞きながらの散策はいいが。



#### ⑥千秋家の墓

梅野公園の東にある墓地のうち、南側の一段高くなっているところが千秋家の墓である。織田信長より野並をはじめ三カ村の所領をいただいた旧熱田大宮司千秋家並びにその分家の墓標が建てられていた。しかし、江戸時代には墓標を建てることは許されず、塚を造りその上に松を一本を植えてそのしるしとしていた。現在の墓標は明治以降のものといわれる。

#### ⑦鎌倉街道

野並八剣社の裏の細い曲線を描く小道が、昔の鎌倉街道（上野道）の名残である。この街道は整理された道路であったのではなく、多くの旅人が歩いて、そこが道になったものである。当時の紀行文などによれば、かなりの通行、宿泊の人で賑わったようである。目印は山の頂上の大きな松の木であった。（聖松）



#### ⑧野並八剣社

祭神は、日本武尊、天照大神のほか7祭神を併祀。旧熱田大宮司であった千秋家の領地であった関係から、熱田神宮にある八剣社の分神として当地に祀ったのがその始まりである。

#### ●戸笠公園

相生山の南、緑区との境界が横切る戸笠池を中心に、8.9ヘクタールの広さがある。池では遠くから飛来する渡り鳥を見ることができるほか、各種の野鳥が人々の目を楽しませている。特に池の東では水草が生い茂り、野鳥の繁殖に適し、カイツブリやカルガモなどの繁殖が確認されている。また、公園内の散歩道は、体の不自由な人にも配慮された散歩道もあり、ジョギングや散歩など市民の憩い場になっている。





# 見つけてごらん 相生山緑地の植物と虫たち

春



シロバナタンポポ:市内ではなかなか見られなくなってきている種



コバノミツバツツジ:相生山緑地にあるツツジの中で春一番に咲く



キミズミ:つぼみがピンクで、花が開くと白くなる。(リンゴの台木として利用される)



モチツツジ:「がく」や若葉にねばりがあるのが特徴。

夏



クワ(実):カイコガの食草。  
果実は熟すと赤から黒紫色に変わる



ヤマトタマムシ:  
玉虫の厨子でおなじみ

ウバタマムシ:色合いが地味なのでこう呼ばれる



カラスウリ:白いレースのような花が夜開く。  
秋には朱色の実をつける。



スイカズラ:白い花がクリーム色の花になることから金銀花とも呼ぶ

秋



ノボドウ:水色、紫、紺の色合いが美しい



シャシャンボ(実):和風ブルーベリー



アサギマダラ:海を渡る蝶



ノコンギク:通称、野菊。薄紫色のかれんな花

冬



フユイチゴ:木漏れ日の下で赤い実が輝く



ガズミ(実):春に白い花が咲き、秋に赤い実がなる



フユノハナワラビ:林縁に見られる







# 史跡散策路 姫街道とハイキングコース

## ①秋葉山慈眼寺

大同4年(809)、京都御所炎上の際、遠州の三尺坊尊が火災を鎮めるため京へ上り、その帰路当地に立ち寄り「鎮防火燭」の真筆を残された。これによって創建された。その後、永禄3年(1560)織田信長が桶狭間の合戦の折、この山に祈願して勝利を得たので、三尺坊の尊像を奉納した。現在も、神仏混合の珍しいお寺で、神仏の行事が修行されている。参道には、藤棚としたれ梅、ぼたん桜の並木がある。なお、毎年12月16日に火渡り神事が行われる。



## ②忠魂碑

秋葉山慈眼寺から針名神社へ至る道の左手に、明治の戦争に従軍した人々の忠魂碑と昭和の戦争での戦没者を祀った顕彰台などがあり、毎年4月に慰霊祭が行われている。



## ③針名神社

秋葉山麓にあるこの神社は、延喜式内社で尾治(張)氏の末えい尾治の針名根連の命を祀る。針名根の命は、当時の尾張の国を支配した。併神として、大己貴命、少彦名命を祀っている。なお、応神天皇の八幡社を明治42年に合祀している。創建は、延喜年間(900年頃)作成の『延喜神名帳』に従三位針名天神と記載されているところから、それ以前と思われる。その後、慶長年間(1612年頃)に、約800m北の元郷から部落と共に移された。また、ちょうちんともしの行事が、昭和57年、50年ぶりに復活した。因みに、犬山市の針鋼神社は、針名根の命とその父君の尾綱根の命を祀っている。



## ④名古屋市農業センター

緑ゆたかな名古屋市東部に位置する名古屋市農業センターは、昭和40年に開設され、主に農業技術の研究と指導を行い、また、農業に親しむことができる施設として市民に利用されている。名古屋コーチンをはじめ乳牛・羊・豚などの飼育、野菜・花などの栽培が行われており、四季を通じて花が咲いている。ペゴニアを中心にした温室、約700本のしだれ梅、ゆったりと遊べる芝生広場などがある。園内では、搾りたての牛乳やアイスクリームなどを販売している。春の「しだれ梅まつり」、秋の「農業センターまつり」には大勢の人々で賑わう。



## ⑤荒池緑地

区の東部、南の荒池から農業センター、針名神社、秋葉山、大堤池に及び、面積は60ヘクタール。針名神社周辺と秋葉山は緑地保全地区に指定され、緑の保全が図られている。また、針名神社と農業センター周辺は野鳥保護区となっており、付近の小学生たちの手で巣箱が設けられている。

## ⑥秀伝寺

曹洞宗。明応2年(1498)僧宗栄の創建。文禄元年(1588)の冬に焼失して廃寺となっていた。その後、徳川家康の命により、日進村龍谷寺から満嶺徳充和尚を招いて慶長17年(1612)再興された。御本尊の釈迦牟尼仏は、享保10年(1725)に作られたもの。



## ⑦姫街道(平針街道)

平針街道は、慶長17年(1612)徳川家康の命により、三州岡崎から名古屋城への近道として造られた。この街道は、江戸時代の主街道である五街道の一つ東海道に対して、姫街道とも脇街道ともいわれた。街道の両側には松並木が続いていたが、太平洋戦争中、造船などの必要から伐採され、今では跡形もない。街道開通に際して人馬の継場(つなぎば)が必要であったことから、郷の島にあった16軒の農家に移転を命じ、街道ぞいに移り住まわせ、「平針宿」が誕生した。その後、足助街道、熱田街道の交わる交通の要所として発展し、本陣、脇本陣も設けられ、宿場として大いに賑わった。





# 荒池緑地 に見られる鳥と虫たち



ツマキチョウ:春だけ成虫が観られる、オスの前羽先端がオレンジでその名がある



キタテハ:6月～10月に平地や樹林周辺で普通に見られる  
タテハチョウ



ムラサキシジミ:成虫で冬を越し3月には日光浴を観る、常緑のガンを好み葉を食す



ショウジョウトンボ:成熟したオスは真っ赤になり「猩猩」になどらえて名付けられた



モノサントンボ:腹部の節が青いリング状の紋が「物差し」の目盛りに見立てられた



アオモンイトンボ:オスの腹部、8節と側面が青い紋がある、メスは成熟して緑色化



## 針名神社周辺



オオリ 夏鳥:5月連休に針名神社などで見られる、背はルリ色で姿も声も美しい



キビタキ 夏鳥:春の渡りに見られる、頭が黒く眉・喉・腹部は黄色、良い声で鳴く



ルリビタキ 冬鳥:冬期雑木林で観られる、オスの上面は青色、脇はオレンジ尾も青い



アカゲラ 冬鳥:白黒で下腹部が赤いキツツキ、背に逆八の字の白斑がある

## 荒池周辺



ツグミ 冬鳥:秋になると群れで渡って来る、公園や芝で採餌は単独生活している



カワセミ 留鳥:水辺で暮らし、水に飛び込み小魚を捕る、クチバシは長く背は青く光る



キジ 留鳥:日本の国鳥、川原や農耕地、林縁で繁殖し草の種や芽や昆虫を食べる



## その他の歴史文化の紹介

### 平針木遣り音頭

木遣り音頭は、旧字平針に伝わる名古屋市の指定無形文化財である。木遣り歌は山から木を切り出して運ぶとき、みんなが力を結集するために歌う作業歌である。後に石や山車をひいたり、地つき・舟おろしなどの作業に歌われ、また座敷木遣りとして祝宴のときにも歌われるようになった。平針はその昔、名古屋と足助、信州を結ぶ足助街道、岡崎と結ぶ平針街道の合流する交通上の要衝であり旅人の宿駅として賑わったものである。名古屋城築城のとき、資材運搬にかり出された農民が歌ったのが最初という言い伝えもあるが、一般的には山林地方からの旅人によって伝えられ、当地の人がそれを覚えたことにはじまったのであろう。たびたび氾濫した天白川の築堤工事の作業歌として歌われるようになり、さらに家屋の建築などの祝い事の席でも歌われるようになった。往時は、歌詞の数は66種にも及んでいて、その節回しは歌ごとに異なり、音譜もないので口授によるほかはなく、習熟するために相当の年数を要した。現在でも祝い事などに保存会の方が伝統を引き継ぎ守り抜いている。



### 棒の手

オマントウ(馬の塔)が社寺に奉納されるときは、飾り馬の左右・前後に鉄砲や武器を持った警護役がつき、境内に入るとこれらの武術も披露された。その中の一つに棒の手があった。起源については一説に天文23年(1554)日進市岩崎町で加賀の人が住民に棒の手を伝授し、岩崎城主みずから一団を引き連れて、猿投神社に詣でたのが始まりという。棒の手の取りものとしては、木製の棒だけでなく木刀、真剣、槍などを使用し、連続技を行うものである。その出で立ちは流派によってやや異なるが、農民の仕事着そのものであった。馬の塔に付随する芸能であったから、棒の使い手は精進潔斎をし、棒の手奉納でもその場を塩で清めてから行った。棒の手には流派があって、それぞれ、武器の使い方は秘伝になっていた。区内には検藤流、見当流、無二流、鎌田流の四流派があり、免許皆伝の巻物を持つ人もいる。最近は各地で保存会を結成し、民族芸能として引き継がれており、無形文化財に指定されている。近年島田神社の氏子が神社改築造営を祝して棒の手の奉納をさせた。



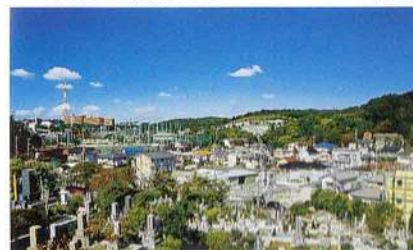
### 八事の蝶々

八事の蝶々はかつて八事山一帯で売られていたみやげものである。創始者は柳三右衛門で、幕末維新のころ禄を離れた士族の内職として盛んに作られるようになったと言われている。きびがらを蝶々の胴に見立て、竹ひごで羽根枠を作って、これに半紙を貼る。触角部分を残して切り、朱・赤・紫・緑・黄色の五色で彩色すると出来あがる。大きさは小さいので半紙半分、大きいので半紙8枚で作る。大正末頃が全盛期であった。



### 天白溪

昭和の初め頃、今の八事霊園の東北、名城大学の東から西北にかけての一角が、当時、尾張百景の一つ「天白溪」と呼ばれ、八事からのバスも通じ、市民の行楽地として賑わっていた。そこには2つの池があったが、北側の池を「上池」といい、今は名城大学のグラウンドになっている。当時は水面を走る水上飛行機が浮かび、人気を博した。また、今では護岸され、わずかに水面を見せているに過ぎない南側の「下池」には、約50艘の貸ボートがあつて、行楽客で賑わっていた。上池と下池との間の水路には、竜頭を形ど



った船が人々を乗せて往復し、その途中には「竜宮城」と呼ぶ建物があり、1銭の入場料で楽しめたという。周辺の山中には、料理店やカフェが立ち並び、芝居小屋では宝塚に似た興行もかかり、人々の憩いの場となっていた。東の丘からは、麓にかけて長さ100メートル位のスベリ台があり、その上方には、料亭「白水園」があった。今では、住宅として生まれ変わり、往時を偲ぶことは難しいが、自然は残っており散策に好適である。

### 松和花壇 土原四丁目

昭和7年頃(3・4年ともいう)、桑名市の松本繁一氏によって「松本住宅」と名付けられた貸し別荘が建てられた。林間に土地330平方メートル、建物82平方メートルのガレージ付き3LDKの家が80戸建てられた。住宅の中心には「山楽荘」という洋食屋があり、一律10銭のカレーライスなどの洋食を提供していた。階上にはピアノを備えたダンスホールがあり、社交場となっていた。高坂の近くには競馬場があった。いわば大歓楽街が誕生したのである。八事からの道路は幅5メートルぐらいあり、当時としては広いもので、



最初はタクシーで送迎していたが、後ほどバスの運行へと変わっていった。山中のことであり、当時の島田の人たちの驚きは大変なものであったが、戦争とともに昭和12年頃に衰退し住宅も分譲された。華やかさを夢みた人たちの物語は今ではバス停に「松和花壇」としてその名残をとどめている。

### 八事遊園地 表山一丁目

大正元年(1912)、耕地整理の際、八事と昭和高校の中間の東側(表山一丁目バス停付近)に尾張電気鉄道(のちの市電)によって約50,000平方メートルの遊園地がつくられた。園内には競馬場があり、草競馬がおこなわれて



いた。また、ブランコ・滑り台その他の遊具も設置され、大人から子どもまで一日中楽しむことができた。いろいろな店も並び、八事名物としてそばまんじゅう、湯豆腐、手作りの「八事の蝶々」などを売る店もあった。現在、八事表山バス停東側の辺りが「上池」、南に「下池」があつて、貸しボートが浮かんでいた。池の水がよく澄み、夏には子どもが泳いでいた。春は特に賑わい、八事から遊園地に至る天道山高照寺の前の道路は行き交う人で混雑したという。八事からの電車は、市内へ帰る人たちで混み、1時間半も待たせる程であった。賑わったこの遊園地も昭和12年に東山動物園ができてから次第に人出が遠のき、すたれていった。



# まつり歳時記

お寺や氏神さまの祭礼に胸を踊らせた幼かった日、人それぞれに懐かしく思い出されることでしょう。豊作を祈り、無病息災を念じた人びとの心は、時が流れた今も変わりません。区内各所で行なわれているおまつりをご紹介します。

天白のまつり歳時記・月ごよみ

## 1月

14日 針名神社 どんとまつり  
中旬 島田神社 天神祭  
24日 地藏寺 地藏祭り

## 2月

初旬日曜 塩竈神社 厄除祭  
1月下旬から2月3日までの間の日曜日  
秋葉山慈眼寺 火渡り

## 3月

5日 秋葉山慈眼寺 湯祭り神事  
第1日曜 大学院 春の大祭、大護摩

## 4月

第1日曜 塩竈神社 護児祭

## 7月

第2日曜 八事神社 天王祭  
中旬日曜 菅田神社 夏まつり  
ちょうちんまつり  
中旬日曜野並八剣社 夏まつり  
20日 針名神社 天王祭  
前夜・ちょうちんまつり  
第3日曜植田八幡宮 夏まつり  
下旬 島田神社 夏まつり、  
前夜・宵まつり、  
ちょうちんまつり

## 8月

24日 地藏寺 毛替地藏大祭  
ちょうちんまつり



## 10月

10日 植田八幡宮 秋まつり  
10日 島田神社 例祭、もち投げ  
10日 針名神社 秋まつり  
第2月曜日(祝日) 八事神社 例祭(秋まつり)  
旧暦14日高照寺 おてんとまつり  
第2月曜日(祝日) 菅田神社 秋まつり  
第3日曜野並八剣社 秋まつり  
前夜・ちょうちんまつり

## 12月

第2日曜 大学院 大護摩供会  
火渡り神事  
中旬 島田神社 秋葉まつり  
16日 秋葉山慈眼寺 火渡り神事

## 天白区のシンボルマーク



天白区の「て・ん」の二文字を組み合わせ、区民ががっちり手を組み、協力していく姿をデザイン化。中心のとがった形は、区の未来への発展を表現。色は緑豊かな天白区を表現しています。

## 『区の木』『区の花』

平成元年に名古屋市が市制百周年を迎え、市・区において数々の記念事業がおこなわれた。その記念事業の一層の盛り上げと天白区のイメージアップを図るために、区民から公募し選ばれたものである。

(平成元年6月1日制定)



区の木「キンモクセイ」

9月下旬から10月上旬にかけて1年中で最も気候の良いときに花が開き、芳香が漂います。  
中国原産の植物



区の花「マーガレット」

春、直径5cm程度の白い花を多数つけます。  
北アフリカ・カナリヤ諸島原産の多年草。

## 表紙

大矢米年画伯の名勝旧蹟故事等のスケッチの色彩石版(天白村誌より)

※大矢米年(本名 大矢清次)

1879年(明治12年)2月愛知郡愛知町米野(現在の名古屋市中村区)に生まれ、天白区の在住の画家として活躍。もっぱら探勝写生につとめ雲谷派の筆法をまじえてついに一家をなした。機智とユーモアをもって円満な生涯をおくった。1966年(昭和41年)没。

発行/名古屋市天白区役所  
区民生活部  
まちづくり推進室  
☎803-1111

第一版監修/浅井金松

改訂発行年月日/平成20年11月

この印刷物は古紙を含む再生紙を使用しています